

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、職員で理念を唱和し共有して実践につなげている。	事業所内に理念を掲示し会議の中で確認しながら認知症や地域密着型施設として全職員が情報の共有化に取り組み実践に繋がっていることが分かります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域のマラソン大会などに出かけ応援をしている。地域の保育園の園児達が来所し歌や踊りを披露してくれる。観月祭にも地域の方の参加がある。	併設施設や事業所との合同行事などを通じ地域住民の参加を得たり、や小学校地域の行事に参加し、交流が日常的に行われている事が写真等で確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修・ボランティア・専門学生の受け入れの際には、認知症について認知症に理解できるように実践で学ばせるとともに近隣の方々にも見学等をおして理解いただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事、日常生活、現状報告や経過報告を行い、委員の方々にアドバイスを頂いている。それをもとに利用者様へのケア、職員教育等に生かしている。	運営推進会議で活発な意見を頂いている。ホームにとって必要な意見はその場で終わることなく、次回の推進会議で取り組みを伝えている。早期の対応に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導にて事業所の実情を伝えて指導を受けた。また、事故報告書の提出や生活保護等に係る相談や報告、計画書の提出をしている。2ヶ月ごとの運営推進会議に市の高齢者福祉課担当者が出席し行政の立場から意見を述べてくれる。	市の担当者に事業所の実情について相談しながら意見や助言を頂いている。又実施指導受けながら市との連携に積極的に取り組んでいることが分かります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてはやむを得ない場合は家族の許可を得。報告をする。ベットの柵についても細心の注意をはらい、職員会議でも身体拘束について研修をしている。一時的に拘束をする場合もあるが身体拘束ゼロ運動を実践している。	職員研修で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者本人がコールを押せないご家族に許可を頂きコールを外している。	コールを押せない利用者についても職員間で検討を行い、コールを手の届く位置に置く工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対しての言葉使いについては日頃から職員間でも気を使っている。職員会議でも虐待防止の研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学ぶ機会を持ち職員に周知徹底したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際に家族の方々に契約内容を読み上げ理解をしていただいている。また、不明な点はいつでも連絡頂けるように信頼関係づくりにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望や意見を伺ったり利用者の日課の経過を報告している。また、2ヶ月に1度8名による運営推進会議を開催し意見・要望を反映させている。	利用者の思いは日常の会話で聞き取る王にしている。ご家族には面会時や通信でお話し意見や要望を頂いている。内容は職員が共有し運営やサービスに具体的に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、職員会議、ミーティング等で職員の意見、提案を聞き反映できるように取り組んでいる。	職員の提案や意見が反映されるような取組が行われている。ないようによって職員が話し合い対応できるように努めている。日頃から代表者や管理者は意見を出しやすい環境作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・賃金規定に基づいて評価し、労働基準法に基づいて就業しやすくしている。労務管理しは万全を期している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会にあまり参加していない。内部研修会は毎月10日に開催している。積極的に参加する者とそうでない職員に分かれているが全員が参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度の認知症事例検討会に参加している。また、年4回認知症ケア研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の際、不安、困難な事、要望等を伺い本人ペースに合うように聞くよう努めるとともにリラックスできるように地域の話等も取り入れ穏やかに会話ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前に話し合いができる機会を設け、家族の思い等を聞きながら何でも話せる関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を受け止めて必要な支援の見極めをしている。他の支援サービスも考慮し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること、洗濯ものをたたんだり、おやつ作りの手伝い、漬物の付け込み等生活を共にしている者同士の関係づくり築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月1度近況報告書「陽だまり通信」を送っている。面会時や電話にて状況報告や相談を行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問、親しんだ町に出かけていく、住み慣れた自宅へ行き家族と写真を撮ったりして関係が途切れないように支援している。	ご利用者と同じ地区の人が面会に来ている。また事前に家族に連絡をして自宅に訪問している。通いつけの美容院・病院等、馴染みの関係が継続できるように努めていることが写真などで確認できます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合いにて言葉少なくとも会話している。時にはトラブルもあるが職員の関わりで緩和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしたいという気持ちはあるが、具体的にこちらから努めていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常接する中で言葉だけでなく毎日の表情、態度から思いや意向の把握に努めている。困難な時は家族から情報を得ている。	利用者の思いや意見は日常の会話や職員の気づきなどで把握に努めている。職員が話し合い、ご家族とも相談しながらより良い支援となるように取り組んでいることが記録から分かります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前本人、家族にアセスメントをして、本人と関わりを持っていく中で知り得た情報を職員で共有し生活歴等を加え記録として残すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活する関わりの中で一人ひとりの様子を観察しプランに沿って行えたか個別にチェックし記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で常に利用者、家族の思い・要望を共有し介護計画に反映させるようにしている。	本人、家族の思いや意見を聞き、職員全員が情報を共有している。また、日常関わる職員の意見を聞き、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はケアプランとともに記入。職員間で情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況にて生まれるニーズを職員全員でその都度対応し希望に添えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千歳保育園児の来所や小学校の運動会の応援に出向いたり、紙芝居のボランティアの来訪、近医受診時に地元の方々との交流を図る等支援をしている。施設全体で音楽療法を取り入れておりホームから毎回3～5人参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医で、月1度職員付き添いの受診と月1回～2回の訪問診療の連携で支援している。	本人や家族が希望する医療機関を利用している。受診には職員が付き添いかかりつけ医と事業所の関係を築きながら継続的に医療が提供されるよう支援していることが分かります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し健康管理を実施。状態の変化の兆し、経過観察等職員間で共有し看護師の意見を仰ぎ適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族の連絡先、現病歴既往症内服薬や日課の様子、介護保険状況等を情報として提供している。また、面会に行き主治医や看護師と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針にて職員は家族と話し合い対応していく様努めている。	医療機関と連携を取りながら、本人・家族の意向を聞き、対応可能な限り最善の終末期を過ごせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との連携を図り定期的に避難訓練を実施。救命講習等の実践訓練を行ったり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、災害通報訓練や避難経路の確認を行っている。	年1～2回、消火、避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て実施している。非常用の食糧及び備品の備蓄や地域との連絡網の協力体制ができていることが確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに十分注意している。ミーティングなどでその都度個人の誇りやプライバシーの保護について毎日の暮らしの中で損ねない様、侵害することのないように努めている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように丁寧な声掛けや対応を全職員が繰り返し会議やミーティングなどで話し合い周知徹底している。トイレの失敗や誘導にはさりげない言葉かけをしている。	プライバシーのマニュアル整備について期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に寄り添い思いや希望を表すことができたり自己決定ができるように支援している。なかなか困難な方にも目線や表情からも読み取ることができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活スケジュールは基本的に設定されているが、一人ひとりのペースで食事時間を調整したり入浴も希望やその日の状態に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容師が来ている。馴染みの理容院へも外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器に盛り付けはできないが、包丁を使い材料を切ったりテーブルを拭いてもらっている。冬期はテーブル席にて「鍋料理」をして味付けをみてもらったり正月はおせち料理を提供している。	能力に合わせて、できる範囲で味付けや作り方を指導して頂いている。準備や片づけを職員と一緒にしている。鍋料理で食事の楽しみへの配慮がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日チェックし記録している。本人に好みを尋ねたりして職員間で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ブラシとスポンジブラシを用い、残菌・舌・頬筋をブラッシングしている。口腔内を清潔保持し、誤嚥性肺炎の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄チェック表にてパターンを把握しており、その時間帯での声掛けと介助を実施。利用者からの訴えはその都度介助している。	排泄チェック表でパターンの把握に努めて、や声かけ誘導を行っている。個々の利用者に合わせて日中は出来る限りトイレでの排泄ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう食事はきちんととって頂き、残食をなくすよう声掛けをしている。水分補給や体操、歩行訓練を日課に取り入れている。必要に応じて主治医の指示の下下剤を使用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に入浴計画を立てているが、本人の希望やタイミングに合わせて自由に入浴ができるように個別援助に努めている。入浴は週2回を基本とし援助している。	利用者の体調や希望に配慮しながら入浴を行っている。重度の利用者には二人対応で安心して入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中はレクリエーションやフットケアを実施。昼食後本人の意向に応じてリビングのソファや居室にて午睡をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や定期受診後に処方された内容は変更や追加はあった場合も含め看護師が業務日誌に記載し回覧している。朝礼時にも口頭で報告。変更や追加処方された薬についてはモニタリングをし主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦だった方は洗濯物をたたんだり、芸事に携わっていた方には民謡や都々逸を披露する場面を設けたりしている。その唄に合わせて職員が踊ると指導されたり褒められたりすることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて本人の希望で周囲の散歩た外気浴を行っている。四季折々の花や畑の野菜、風景を楽しみながら外出支援に努めている。	地域で行われるイベントに参加したり戸外散歩、ドライブ等楽しんでいる。本人の希望で自宅訪問や受診支援を日常的に行っている。職員が工夫しながら外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホ-での管理を希望される方を除き家族が管理している。買い物を希望する時はお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方に自ら電話することは自由であり、受話器を移動して話すことは1名あった。最近では本人から意志表示できる方がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がくつろげるリビングは吹き抜けで太陽の陽がさし込み明るく開放感がある。周囲は畑、木々の緑、季節感のある花、キッチンからは料理する香りがして生活感が味わえるようにしている。	共用空間には特に季節感を感じてもらえるように花や飾り付けなどの配慮がなされています。事業所ならではの景観を生かしたテーブルや家具の配置がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに気の合う利用者同士で座ったり一人かけのソファでゆったりと過ごしたりして思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使いなれた家具、外出した際の写真、カレンダー、テレビ等本人の好みに合わせ居心地よく過ごせるように工夫している。	居室内は家具や寝具など使い慣れた物を使用している。配置は家族・本人の好みに合わせ快適に安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホ-ムの内部は安全な環境とスムーズな動作を促す為手すりを設置している。また、各居室の入口に表札をつけ自室を確認することができる。		